



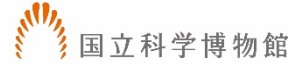
国立極地研究所
大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構



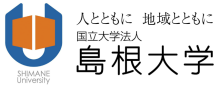
茨城大学
Ibaraki University



CHIBA
UNIVERSITY



国立科学博物館



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学



有限会社
アルプス調査所



神戸大学



復建調査設計株式会社
FUKKEN CO., LTD.



産総研



国立研究開発法人
海洋研究開発機構



大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY



東京学芸大学
Tokyo Gakuai University

千葉県立中央博物館



滋賀県立
琵琶湖博物館

九州大学



技研コンサル株式会社



信州大学
SHINSHU UNIVERSITY



文化財調査
コンサルタント
株式会社

平成 29 年 11 月 14 日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所

国立大学法人茨城大学

国立大学法人千葉大学

独立行政法人国立科学博物館

国立大学法人島根大学

有限会社アルプス調査所

国立大学法人神戸大学

復建調査設計株式会社

国立研究開発法人産業技術総合研究所

国立研究開発法人海洋研究開発機構

公立大学法人大阪市立大学

国立大学法人東京学芸大学

千葉県立中央博物館

滋賀県立琵琶湖博物館

国立大学法人九州大学

技研コンサル株式会社

国立大学法人信州大学

文化財調査コンサルタント株式会社

お知らせ

国際標準模式地の審査状況について

～地層「千葉セクション」の認定へ向けて～

- 国際地質科学連合 (IUGS) の作業部会で、10 月から 11 月にかけて、地質時代の「前期-中期更新世境界 (注 1)」の国際標準模式地 (GSSP、注 2) の候補を選ぶ投票が行われた。その結果、千葉県市原市の地層「千葉セクション」が選出され、IUGS 内の上部の委員会に答申されることとなった。
- 今後、IUGS 内で、答申を認めるかどうかの審査が、3 段階にわたり行われる。
- 審査の結果、千葉セクションが GSSP になった場合には、現在「中期更新世」と呼ばれている約 77 万年前～約 12 万 6 千年前の地質時代の名称が「チバニアン」になる。

11月12日、国際地質科学連合(International Union of Geological Sciences、IUGS)の中の作業部会(下部-中部更新統境界作業部会)で、「前期-中期更新世境界」のGSSP候補を選ぶ投票が終了しました。その結果、3つの候補の中から千葉県市原市の地層「千葉セクション」が選出され、IUGS内の上部の委員会に答申されることに決まりました。

「千葉セクション」をGSSPに提案する申請書は、日本の研究チーム(注3)が今年6月7日に作業部会に提出していました(文献1)。「千葉セクション」の他には、イタリア南部のモンタルバーノ・イオニコ(Montalbano Jonico)、同じくイタリア南部のヴァレ・デ・マンケ(Valle di Manche)の地層をそれぞれ支持するグループが申請書を提出していました。

作業部会での約3か月の討論期間の後、10月10日からの1か月間、電子メールにて投票が行われ、その結果、「千葉セクション」が最も多くの票を集め、GSSP候補として上部の委員会に答申されることになりました。

今後は、図3のようなステップで答申を認めるかどうかの審議が行われ、最終的にIUGSの投票で60%以上の得票があれば、「千葉セクション」が前期-中期更新世境界を示すGSSPとなります。GSSPとなった場合、地質時代の中期更新世(約77万年前～約12万6千年前)が、「千葉の時代」を意味する「チバニアン(Chibanian)」と名付けられます。なお、IUGSの投票は早くとも来年以降の見込みです。

<文献>

文献1

国立極地研究所・茨城大学ほかプレスリリース『千葉県市原市の地層を地質時代の国際標準として申請～認定されれば地質時代のひとつが「チバニアン」に』

<http://www.nipr.ac.jp/info/notice/20170607.html>

<図>



図1: 千葉セクション(千葉県市原市)の位置。



図 2: 市原市田淵の養老川岸の地層「千葉セクション」。

WG on L-M boundary (下部-中部更新統境界作業部会) で最適な候補を 1 つ選出。
SQS (第四紀層序小委員会) へ答申。



SQS (第四紀層序小委員会) で答申を認めるか投票。60%以上の得票が必要。



ICS (国際層序委員会) にて投票。60%以上の得票が必要。



IUGS (国際地質科学連合) にて投票。60%以上の得票が必要。



GSSP 決定

※それぞれのステップの投票の時期などは通知されていない。

図 3: GSSP の審査ステップ。

<注>

注 1 前期-中期更新世境界: 今回の審査で選ばれる GSSP は、「前期-中期更新世境界」の時代(約 77 万年前)に堆積した地層であり、正式には「下部-中部更新統境界 GSSP」と呼ばれる。ここで、「更新統」とは、地質時代の「更新世」に堆積した地層のことで、同様に、「下部更新統」は「前期更新世」に、「中部更新統」は「中期更新世」にそれぞれ対応している。

注 2 GSSP: Global Boundary Stratotype Section and Point (国際標準模式層断面及び地点。国際標準模式地ともいう)。IUGS は、それぞれの地質時代の境界を地球上で最もよく示す地層を 1 つだけ選び、GSSP に認定している。GSSP は現在、世界に 68 カ所あるが、日本にはまだない。

注 3 日本の研究チーム：茨城大学の岡田誠教授、国立極地研究所の菅沼悠介准教授、千葉大学の亀尾浩司准教授、国立科学博物館の久保田好美研究員を中心とする 22 機関 32 名からなる。詳細は文献 1 を参照のこと。

お問い合わせ先

国立極地研究所 広報室

TEL: 042-512-0655 FAX: 042-528-3105 E-mail: kofositu@nipr.ac.jp

茨城大学 広報室

TEL: 029-228-8008 FAX: 029-228-8019 E-mail: koho-prg@ml.ibaraki.ac.jp

産業技術総合研究所 企画本部 報道室

TEL: 029-862-6216 FAX: 029-862-6212 E-mail: press-ml@aist.go.jp